

第六十四回
帝國議會
貴族院

關稅定率法中改正法律案特別委員會會議事速記録第一號

付託議案

關稅定率法中改正法律案

昭和七年法律第四號中改正法律案

委員氏名

委員長 子爵梅園 篤彦君
副委員長 倉知 鐵吉君

侯爵徳川 義親君
子爵吉田 清風君
男爵橋元 正輝君

西野 元君
次田大三郎君
吉田羊治郎君
鈴木 幸作君

昭和八年三月十八日(土曜日)午後一時四十分開會

○委員長(子爵梅園篤彦君) ソレデハ是カラ開會イタシマス、政府提出ノ關稅定率法中改正法律案並ニ昭和七年法律第四號中改正法律案ヲ議題ト致シマス、先ヅ政府委員ノ提出理由ノ御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(堀切善兵衛君) 兩法律案提出ノ理由ハ、過日本議場ニ於テ申述ベマシタ通りデアリマスルカラ、之ヲ省略イタシマシテ、各品目ニ付テノ説明ヲ主税局長ヨリ

致スコトニ致シタイト思ヒマス

○政府委員(中島鑣平君) ソレデハ私ヨリ關稅定率法中改正法律案ノ各品目毎ニ付キマシテ、稅率改正ノ理由ヲ成ベク簡單ニ御説明イタスコトニ致シマス、説明ノ便宜ト致シマシテ、現行輸入稅表ノ稅番順ニ御説明イタスコトニ致シタイト思ヒマス、先ヅ麻黃、生酒石及此法律案ノ最後ニアリマスル骨灰ニ付キマシテ御説明ヲ申上ゲマス、此三ツノ物品ハ從來何レモ、輸入稅表ノ第二百二十九號「別號ニ掲ケサル藥材、化學藥及製藥」ト云フ項目ノ中ニ包含セラレテ居リマシテ、從價二割ノ關稅ヲ適用シテ參ッテデアリマスルガ、此際何レモ之ヲソレソレ輸入稅表上ニ特掲イタシマシタ上ニ、全部之ヲ無稅品ニ改メマスルコトガ適當デアルト考ヘタノデアリマス、麻黃ト申シマスモノハ、麻黃ト稱シマスル植物ノ莖ヲ乾燥イタシタモノデアリマシテ、主トシテ滿洲及中華民國ニ産シテ居リマスルガ、我が國ニハ御承知ノ如ク其生産ガアリマセズ、且ツ其代用品トナルモノモナイ有様デアリマシテ、毎年外國カラ相當輸入シテ居ルノデアリマス、是ハ喘息ノ特效藥ニナリ

マ、「エフエドリン」トカ、或ハ麻黃「エクス」ナドノ原料ニ供セラレルノデアリマスガ、元來此麻黃中ニ「エフエドリン」ト云フ精分ノ存在シテ居リマスコトヲ發見イタシマシタノハ我が國ノ學者デアリマシテ、其原料デアリマスル麻黃ノ關稅率ヲ現行ノ如ク二割ト云フコトニ致シテ置キマスル時ハ、外國ニ於キマシテ麻黃カラ「エフエドリン」ヲ製造イタシマシテ、之ヲ我が國ニ輸入イタスコトナル處レモアリマスルノデ、内務省ノ藥料振興調査會ニ於キマシテモ、本品ノ關稅ハ之ヲ無稅トナスコトガ適當デアルト云フ決議ヲ致シテ居ル關係モアリマスノデ、此際此關稅ヲ無稅ニ改メマスルコトハ、我が國ノ藥業振興ノ立場カラ致シマシテモ、極メテ適切ナル處置デアルト考ヘタ次第デアリマス、尙ホ此麻黃ヲ輸入稅表中ニ特掲イタシマスニ付キマシテハ、其稅番ヲ何處ニ置クカト云フコトガ一應問題トナルノデアリマスガ、是ハ本品ガ元來植物ノ莖デアリマスルナドノ關係ナドニ鑑ミマシテ、輸入稅表ノ百三十五ノ二「イリス」根ト云フモノガアリマスルガ、ソレ等ト大體同一ノ種類ノモノト見マシテ、「イリス」根ノ次二百三十五ノ三ト云フコトニ致シマシテ、之ヲ稅表ニ特掲スルコトガ適當デアルト認メタ次第デアリマス、次ニ生酒石ト申シマスルノハ、葡萄酒ヲ製造イタシマスル際ニ桶ノ中ニ附著シテ出來マスル所ノ副産物デアリマシテ、其用途ト致シマシテハ、染色用劑ト致シマシテ必要ナル吐酒石トカ、又ハ其他ノ酒石酸鹽類ノ原料ニ供セラレルノデアリマシテ、誠ニ重要ナル製藥ノ原料品デアリマス、然ルニ本品モ亦我が國ニハ殆ンド其生産ガアリマセズ、現在ハ主トシテ佛蘭西カラ輸入セラレテ居ルノデアリマス、輸入額モ昨年ハ數量ニ致シマシテ約四十六萬斤、價格ニ致シマシテ約十五萬圓ニ達シテ居ルノデアリマス、本品モ亦其藥用上ノ重要性ニ鑑ミマシテ、内務省ノ藥業振興調査會ニ於キマシテモ、其關稅ノ撤廢ノ決議ヲ致シテ居ル次第デアリマス、本品ハ其成分ガ一種ノ加里鹽類デアリマス關係ナドニ鑑ミマシテ、現行輸入稅表ノ第七十四號ノ「硝酸加里」ト云フ所ガアリマスガ、硝酸加里ノ次二百七十四號ノ二ト云フモノヲ新ニ設ケマシテ、之ヲ稅表ノ上ニ明記スルコトガ適當ガアラ

ウト考ヘテ居ルノデアリマス、最後ニ骨灰デアリマシマスガ、骨灰ト申シマスルノハ、獸骨ヲ焙燒イタシマシタ白色ノ粉末デアリマシマスガ、本品ハ此頃ニナリマシテ、高級ノ陶磁器ナドノ原料ト致シマシテ其輸入ヲ必要トスルニ至ラタノデアリマス、然ルニ本品ハ其成分方磷酸石灰デアリマシマスノデ、麻黄及生酒石ト均シク從來輸入稅表番號第二百二十九號ニ依リマシテ、矢張り從價二割ノ關稅率ヲ適用セラレテ居ラタノデアリマシマスガ、此程度ノ稅ヲ課シテ居リマシテハ、我が國ノ高級磁器等ノ發達等ニモ支障ヲ來ス虞モアリマシマス、又本品ハ我が國ニハ其生産モノイノデアリマシマスカラ、旁、之ヲ無稅ト致シマシテ、我が國ノ陶磁器ノ品質向上ニ資スルコトガ適當デナイカト考ヘタ次第デアリマス、尙ホ本品ハ輸入稅表ノ第六百十七號ノ「骨灰」ノ次ニ六百十七號ノ二ト致シマシテ之ヲ特掲スルコトト致シ、同時ニ只今ノ稅表ノ六百四十六號ノ「肥料」ト云フ題ガアリマシマスガ、其肥料ノ括弧ノ中ニ「骨灰」ト云フ文句ガアリマシマス、其「骨灰」ト云フ文句ハ、此際之ヲ削除イタシマシテ、其骨灰ハ今度新ニ特掲イタシマスルニ六百十七號ノ二ノ「骨灰」中ニ包含スルコトヲ適當ト考ヘタ次第デアリマス、次ニ稅表番號六百

十二號ノ「ドグラスファ」ナドノ長丸太ニ付テ御説明ヲ申上ゲマシマス、御承知ノ如ク「ドグラスファ」ハ專ラ北米合衆國及加奈陀カラ輸入セラレテ居リマシテ、一般ニ米松ト稱ヘテ居ル木材デアアルノデアリマス、サウ致シマシテ其中ノ長丸太ト申シマシマスノハ特ニ長尺ノ丸太材ヲ謂フノデアリマシテ、現行輸入稅表番號ノ六百十二號ノ一ノ己ノ五ノ二ニ……大變複雜シテ居リマシマスガ一ノ己ノ五ノ二ニ「長十」メートルヲ超エサル口ノ直径三十センチメートルヲ超エサルモノ、斯ウ云フコトニ特掲ヲ致シテ居ルノガ即チ之ニ該當スルノデアリマス、是等ノ木材ハ御承知ノ通り主トシテ大キナ建築物デアリマシトカ、又ハ橋梁ナドノ基礎工事ニ打込丸太ナドニ用ヒラレルノデアリマシマスガ、昭和四年ニ於キマシマス木材關稅ノ改正ノ際ニ於キマシテハ、當時未ダ内地ニ於キマシテハ殆ド此種ノ生産ガアリマシセナカッタ關係カラ致シマシテ、特ニ當時ハ之ヲ無稅ニ拵ヘ置イタノデアリマシマス、然ルニ其後ニ至リマシテ、是等木材ノ輸入ガ毎年相當多額ニ上テテ居リマシマス狀況デアリマシテ、一昨年ハ約四萬立方メートル、價格ニ致シマシテ約七十萬圓ノ輸入ヲ見テ居リマシマス、昨年ハ約四萬八千立方メートル、價格ニ致シマシ

テ約百十八萬圓ニ達シテ居ル狀況デアリマシマス、然ルニ御承知デモアリマシマスガ、最近朝鮮ノ北部地方ニ於キマシテ此種ノ長丸太ニ適シマシマス落葉松材ガ多量ニ生産セラレルヤウニナリマシテ、其產出額ハ昨年ハ約五萬石ニ達シテ居ルノデアリマシマス、而シテ今後所謂北鮮開拓事業ナルモノガ進捗イタシマシマス共ニ、其生産額モ漸次増加イタスベキ狀況ニ在ルノデアリマシマス、是等朝鮮材ノ對抗材デアリマシマスル米松ノ關稅ガ無稅トナテ居リマシテ、競争上相當ナ壓迫ヲ蒙ラテ居ル實情ニアアルノデアリマシマスカラ、北鮮地方ニ於キマシマス其生産ヲ保護助長イタシマシマス爲ニハ、此現在無稅デテリマシマス所ノ米松材ノ一部分ノ木材ノ輸入ヲ抑壓スルノ必要ガアルノデアリマシマス、從ヒマシテ此際此「ドグラスファ」ノ長丸太ニ對スル無稅ノ範圍ヲ、其長サノ點ニ於キマシテ多少縮小イタスコトト致シマシテ、長サガ十八メートルヲ超エマシテ末口ノ直径三十センチメートルヲ超ヘナイ、一番長イモノハ之ハマガダ生産ヲ見ナイノデアリマシマスカラ、之ヲ從來通リ無稅ニ拵置キマシマス共ニ、今日大體北鮮產ノ落葉松材ヲ以テ供給シ得ラレルモノト認メラレマシマスモノ、即チ長サ十一メ

ートルヲ超エ十八メートルヲ超エナイ、此程度ノモノハ、之ヲ從來ノ無稅品ヲ有稅品ト致スコトニ改メマシテ、其稅率ハ其用途ガ、建築物ノ基礎工事、打込丸太ナドニ用ヒマシマスノガ其用途デアリマシマスカラ、即チ消費ノ方面ヲ考慮イタシマシテ、比較的ニ低イ稅率デアリマシマス每立方メートルニ圓ト云フコトニ致シタラ如何カトシテ提案イタシタ次第デアリマシマス、次ニ所謂南洋材ナドノ闊葉樹ニ關シマシマス改正デアリマシマスガ、是ハ稅表ノ「癸、其他イ、ロ」トアリマシマス此項目ニ當ルノデアリマシマス、所謂南洋材ニ關シマシテハ、昨年ノ六十二議會ニ於キマシテ衆議院ニ於キマシテ、南洋材ニ對スル課稅ハ、次期議會ニ必ズ提案スベシト云フヤウナ附帶決議ヲ附セラレマシタ關係モアリマシテ、政府ニ於キマシテハ其後慎重審議ヲ重ネマシタ結果、本案ヲ提出イタシタ次第デアリマシマス、御承知ノ如ク我が國ニ於キマシマス一般闊葉樹材ノ輸入ハ相當多量ニ上テテ居ルノデアリマシマス、昨年ニ於キマシテハ約四十七萬圓、價格ニ致シマシテ約二百六十萬圓デアリマシタ、其中所謂南洋材ト稱シテ居リマシマスモノノ輸入ハ約四十三萬石、價格約二百三十萬圓ニ達シ、此一般闊葉樹材ノ輸入ノ殆ド全部ハ南洋材ノ

輸入ト言フテ宜シイ位ノ程度ニアルノデア
リマス、昨年來矢張り依然トシテ内地市場
ニ於キマシテ、其對抗材デアリマスル本邦
産ノ闊葉樹材ヲ壓迫シテ居ルヤウニ認メラ
レルノデアリマス、從ヒマシテ本邦ニ於キ
マスル林業保護ノ立場カラ、是等闊葉樹材
ノ關稅ヲ改正スルノ必要ヲ認ムルニ至ラ
次第デアリマスカ、其關稅率ノ按排ニ付キ
マシテハ、南洋ニ於キマスル本邦人ノ企業
ニ及ボス所ノ影響ナドノ方面ヲ十分ニ考慮
イタス必要ガアリマスノデ、本品ノ資材ニ
對シマシテハ大體從價一割程度、餘リ高ク
ナイ從價一割程度ノ從量稅デアリマスル毎
立方「メートル」二圓ト云フコトニ致シ、其
製材ニ對シマシテハ木材ノ現行關稅率ニ於
キマスル資材ト製材トノ間ノ差ガ、大體六
分程度デアリマスル點ニ鑑ミマシテ、之ヲ從
價一割六分程度ノ從量稅、即チ每立方「メー
トル」五圓五十錢トスルノヲ適當ト考ヘマ
シテ次第デアリマス、尙ホ一言申添ヘテ
置カネバナラスト思ヒマスルガ、現行輸入
稅表ニハ本品ノ製材ト資材トヲ厚サ百五十
「ミリメートル」ヲ以テ區分ノ限界ト致シテ
居ルノデアリマスガ、此點ハ木材ノ寸法ニ
關シマスル標準規格ヨリ致シマシテ、針葉
樹材ガ既ニ今日厚サ二百「ミリメートル」ヲ

以テ其區分ノ限界ト致シテ居リマスノデ、
其兩者ノ岐レ目ハ此際針葉樹材ノ場合ト同
様ニ、之ヲ厚サ二百「ミリメートル」ヲ以テ
區分イタスヤウニ改正スルコトガ適當デハ
ナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘマシテ改正案ニ
ハ百五十「ミリメートル」ヲ厚二百「ミリメー
トル」ニ改メマシテ次第デアリマス、最後
ニ蒟蒻芋ニ付テ御說明申上ゲマス、蒟蒻ハ
御承知ノ如ク我國ノ山間農村ニ於キマシテ、
廣ク栽培セラレテ居リマス農作物デアリマ
シテ、殊ニ群馬、岡山、廣島、茨城、靜岡
及福島ナドノ諸縣ニ於キマシテハ養蠶ノ收
入ト共ニ、農家ノ重要ナル收入ヲ成シテ居
ル模様デアリマス、蒟蒻ノ栽培面積ハ昭和
六年ニ於キマシテハ約八千町歩ニ上ボッテ
居リマス、其生産數量ハ約九千四百萬斤デ
アリマシテ、之ヲ切干ニ換算イタシマスレ
バ約千七百萬斤トナリ、其價格ハ約四百四
十萬圓ニ上ボッテ居ルノデアリマス、蒟蒻ノ
栽培面積及生産數量ハ大體ニ於キマシテ年
ト共ニ増加イタス趨勢ニアルノデアリマス
ガ、其價格ニ至リマシテハ、却ッテ年ト共
ニ減少ヲ示シテ居ルヤウナ傾向ニアルノデ
アリマス、蒟蒻ノ輸入狀況ヲ見マスルニ是
ハ全部切干トシテ毎年相當ニ多量ノ輸入ヲ
見テ居ルノデアリマス、昭和六年ニ於キマ

シテハ約三百四十萬斤、價格ニ致シマシテ
約四十萬圓ニ達シテ居リマス、昨七年ハ前
年ニ比較シマシテ多少減少ヲ示シテ居リマ
スルガ、ソレデモ尙ホ約百五十萬斤、價格
ニ致シマシテ約十六萬圓ニ達シテ居ルノデ
アリマシテ、其主ナル仕出國ハ蘭領印度及
中華民國デアリマス、然ルニ蘭領印度カラ
參リマスル蒟蒻芋ハ、總テ野生ノモノヲ其
儘採集イタシマシテ、之ヲ切干トシテ居リ
マスニ過ギナイナドノ事情カラ致シマシテ、
極メテ低廉ナル價格ヲ以テ我國ニ輸入サレ
ルノデアリマス、從ッテ是ガ爲ニ内地産ノ
蒟蒻芋ハ著シク壓迫ヲ蒙ルコトナリマシ
テ、延イテ我國山間農村ノ經濟ニ對スル大
ナル打擊ヲ與ヘツツアル實狀デアリマス、
從ヒマシテ農家經濟ノ窮迫イタシテ居リマ
ス今日ニ於キマシテハ、是等外國品ノ輸入
ヲ相當抑制イタシマスコトハ此際適當ノ處
置デアルヤウニ考ヘラレマス、而シテ其關
稅率ニ付キマシテハ輸入蒟蒻芋ノ内地ニ於
キマスル市場價格、及内地品ノ生産費竝ニ
内外品ノ品質上ノ格差ナドノ點ヲ十分ニ考
慮イタシマシテ粉狀ニ非ザルモノハ、之ヲ
每百斤五圓五十錢、粉狀ノモノハ切干カラ
製粉イタシマスル、其製粉ノ收得率ナドヲ
參酌考慮イタシマシテ、每百斤十六圓ノ稅

率ヲ配スルノガ適當デアルト考ヘマシテ次
第デアリマス、尙ホ本品ハ現行輸入稅表ニ
於キマシテハ特掲セラレテ居リマセズ、稅
表ノ一番最後ノ番號デアリマスル六百四十
七號ヲ適用イタシテ居ルノデアリマス、此
際之ヲ新タニ特掲イタスコトト致シマシ
テ、其稅番ノ順位ハ本品ガ植物ノ地下莖デ
アルナドノ關係カラ致シマシテ、雜品中ノ六
百七號ノ二ニ「カッサヴァルート」ノ次ニ第
六百七號ノ三ト云フモノヲ新設イタシマシ
テ、之ヲ稅表ニ特掲イタスコトト致シテ次
第デアリマス、各品目ニ關シマスル稅率改
正ノ大體ノ事情ハ右ノ通りデアリマスガ、
御質問ガアリマスレバソレノ關係當局カ
ラ御說明申上ゲルコトニ致シタイト存ジマ
ス、次ニ昭和七年法律第四號中改正法
律案ニ付テ簡單ニ御說明申上ゲマス、政
府ハ只今御說明申上ゲマシタ通り、關
稅定率法中改正法律案ニ依リマシテ、
此際差當リ措置スルコトヲ必要ト認メマシ
タ是等ノ物品ニ關シテ、其稅率ノ改正案ヲ
提出イタシタノデアリマスガ、是等ノ物品
ノ中、麻黃、生酒石及骨灰ノ三品ハ、只今
申上ゲマシタ通りノ現行ノ從價稅カラ全然
無稅品トナルノデアリマスカラ、是等ノ物
品ハ昨年ノ法律第四號トハ何等ノ交渉ヲモ

持タナイノデアリマス、然ルニ此「ドグラ
スフアー」等ノ長丸太、南洋材及蕪蕪芋ノ稅
率ハ、現行ノ輸入稅表ニ於キマシテハ只今
御説明申上ゲマシタヤウニ無稅、又ハ從價
稅デアルノヲ、今回何レモ新ニ從量稅ニ改
メマス關係上、法律第四號、即チ輸入稅ノ
從量稅率ニ關スル法律トノ間ニ關係ヲ生ジ
テ參ル譯デアリマス、而シテ是等ノ物品ノ
關稅率ハ、只今御説明申上ゲマシタヤウニ
何レモ其生産、輸入並ニ需給狀況ナドニ關
シマスル諸般ノ實狀ヲ勘案考慮イタシマシ
テ決定イタシタモノデアリマスカラ、是等
物品ハ課稅上自然此法律第四號ノ別表ニ
掲ゲテ居リマスル所ノ諸物品ト同様ニ取扱
ハルベキモノト考ヘル次第デアリマス、從
ヒマシテ是等ノ物品ハ、之ヲ同法ノ別表ニ
追加イタシマシテ、所謂百分ノ百三十五ノ
課稅カラ之ヲ除外イタスノ必要ガアルノデ
アリマスカラ、此改正法律案ヲ提出イタシ
マシタ次第デアリマス

○委員長(子爵梅園篤彦君) 此際一寸御諮
リ致シマス、本日ハ缺席ノ方モ比較的多イ
ヤウデアリマスルシ、又參考資料ヲ御要求ニ
ナル方モアルカト存ジマスノデ、只今ノ政
府委員ノ御説明ニ對シマシテハ簡單ニ御質
問ヲ願ヒマシテ、次回ニ十分ニ質問ヲ盡ス

ト云フヤウナコニト致シマシタナラバ如何
デゴザイマセウカ
〔贊成〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵梅園篤彦君) ソレデハ御質
問ノ方ゴザイマシタナラバ此際願ヒマス
○倉知鐵吉君 此關稅定率法中改正法律
案及昭和七年法律第四號中改正法律案ニ付
キマシテ、極ク大體ノ御尋ネヲシテ政務次
官ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、此關稅
改正ニ對シマシテハ政府ニ於テ關稅委員會
ヲ設ケラレテ、大分長ク御評議ガアッタヤ
ウデゴザイマシマスガ、其當時ハ改正セラルベ
キ品目ハ相當多數ニ上ッテ居リタヤウニ思ヒ
マスガ、今度御提案ニナリマシタ際ニハ當
初問題トナッテ居リマシタル品目ノ大多數
ヲ改正セナイコトニ爲サレマシテ、今回御
提案ノ極ク少數ノ品目ニ止メテ改正ヲ申出
デラレタヤウニ思フノデアリマス、私ハ各
國現在ノ經濟上貿易上ノ趨勢カラ見マシテ
モ、亦殊ニ我が國ノ産業ノ現狀カラ考ヘテ
見マシテモ、餘リ多數ノ品目ニ付キ稅率ヲ
動カサレルコトハ適當デナイト存ジテ居リ
マスノデ、今度御提案ニナッタヤウノ程度ガ
極メテ適當ト思フノデゴザイマシマスガ、ソレ
ニ付テ承リタイノハ政府ハ本案ヲ以テ一應
關稅ノ變更ヲ終ヘタモノト爲サツテ、何カ特

ニ重大ナル事情ノ變化ガゴザイマシマスレバ鬼
ニ角、普通ノ狀態ニ於テハ先ヅ關稅ノ改正
ハ之デ打切ルト云フ御考ヘデゴザイマセウ
カ、ソレトモ今度出シタノハ取敢ヘズ急グ
モノヲ出シタノデ、是カラ第二回、第三回
ト續々關稅改正案ヲ出ス積リデアルト云フ
御考ヘデゴザイマセウカ、其點ヲ伺ヒタイ
ト思フノデアリマス、蓋シ我が國ノヤウナ
産業進歩ノ中途ニアル國ニ於キマシテハ、
關稅率ハ成ルベク之ヲ一定シマシテ、一旦
定メマシタ以上ハ容易ニ動サナイト云フコ
トガ、當業者ヲシテ安心シテ産業計畫並ニ
經營ニ從事セシムルヤウニナルノデアリマ
シテ、是ガ必要ダト思フノデアリマスル
ガ、若シ毎年ミミ今度ハ此品、此次ハ此品
ト頻リニ關稅ノ改正ヲ爲サレマシト云フコ
トニナリマシト、産業上ノ基礎ニ安定ヲ缺
キマシテ、當業者モ其向フ所ヲ知ラヌト云
フコトニナラウカト思フノデアリマスガ、
只今御尋ネ致シマシタ點ハ、當業者ノ安心
ヲ得セシムル爲ニ明確ニ政府ノ御意見ヲ
伺ッテ置イタ方ガ宜イカト思ヒマスカラ、其
點ヲ御尋スル次第デアリマス

○政府委員(堀切善兵衛君) 只今ノ御質問
ニ對シマシテハ、私共ト致シマシテハ大部
分ニ於キマシテ全然御同感ニ感ジテ居ル次

第デアリマス、關稅委員會ヲ開キマシタコ
トハ、本案ヲ提出スル前ニ一回開イタノデ
アリマスガ、其會ヲ開ク準備ト致シマシテ、
準備會、即チ幹事會ト云フヤウナモノハ絶
エズ開イテ居リマシテ、大藏省、商工省、
農林省等ノ幹事諸君ガ會合シマシテ、絶エ
ズ研究調査ヲ致シテ居リタノデアリマス、ド
ウ云フモノヲ關稅委員會ニ出シタラ宜カラ
ウカト云フヤウナ、マア問題ニナリサウナ
モノヲ捨テリ見タ次第デゴザイマシマスガ、ソ
レガ可成リ多數ニ上リマシタノデゴザイマ
シタガ、結局幹事會ノ議ヲ經テ、即チ各方
面ノ意見ガ纏マリマシテ、關稅調查委員會
ニ提出スルヤウニナリマシタノハ極ク僅カ
ニ落著イタノデアリマス、其提出ヲ見、ソ
コデ決議サレタモノガ今回提出イタシマシ
タ是ダケニ止マル次第デアリマス、各國ノ
現狀ヨリ見テ、餘リ稅率ヲ動カサナイ方ガ
宜シイデヤナイカト云フ御趣意、誠ニ御尤
モデゴザイマシマス、世界各國何レモ非常ニ近
年稅率ヲ高ク致シマシタノデアリマス、最
近ニ於テモ上ゲヤウトシテ居ルヤウナ國モ
少クナイヤウナ狀態デゴザイマシマス、此間ニ
立チマシテ我國バカリガ急イデ此方カラ先
ニ稅率ヲ下ゲルト云フヤウナコトヲ致シマ
スルト云フト、他日却テ悔ヲ胎サヌトモ限

ラナイノデゴザイマス、何レ是等ノ點モ新聞ナドニ出テ居リマス通り、亞米利加邊リガ主唱者ニナッテ國際的ニ稅率ヲ低ククスルヤウナ會議ナドモ開カウト云フ噂モアリマスノデ、他日ノ準備ニモ我ニハ備ヘテ置カナケレバナラヌトモ考ヘテ居ルノデアリマス、又爲替關係ナドガ非常ニ激變イタシマシテ、此關稅案ヲ提出シマシタ際ニハ、爲替ガ約三十二三弗ト記憶イタシテ居リマスガ、ソレガ最近二十弗ニ落チ、今回モ亞米利加ノ金融騒ギデ二十二弗ニ又上リカケテ居ルト云フヤウナ次第デゴザイマシテ、此前提案イタシマシタ所ノ精神カラ言ヘバ從量稅率ト、從價稅率ノ權衡ヲ得セシムルト云フ點ニ重キヲ置キマシタカラ、其均衡ノ點カラ初ハ三十一二弗ガ二十二弗位ニ落チマシタノデアリマスカラ、モット上ゲナケレバナラヌヤウナ關係ニナッテ參ルノデアリマスカ、併シ此際其均衡バカリデナク、物價ノ點ナドモ考ヘナケレバナラヌ、又此際更ニ引上ゲテハ外國ノ我國ニ對スル感情ナドモドウ云フモノカト云フヤウナ種々ノ點ヲ考慮イタシマシテ、結局ドウシテモ是ハ改正シタ方ガ宜シイト、各方面ノ意見ノ一致シマシタモノダケ、即チ茲ニ提出シマシタ、少數ノモノダケヲ提出スルコトニ

ナッタノデアリマス、是デ一應濟ンダト見ルカ、即チ打切りト見ルカ、或ハ第二回、第三回ト、更ニ之ヲ出ス考カト云フ御質問デゴザイマスガ、是デ以テ打切りマシテ今期議會ニハ強ヒテ第二回、第三回トハ出サナイ積リデアリマス、唯此次ノ本議會等ニ於キマシテハ、其間ニ尙ホ各品目ニ付テ研究調査ヲ重ネナクテハナラヌノハ無論ノコトデゴザイマスカラ、幹事會ニ於テモソレ等ノ點ヲ種々調査考究イタス積リデハゴザイマスカ、果シテドウ云フ提案ヲ致スコトニナルカハ諸外國トノ關係、國內産業ノ狀況、物價ノ程度ト種々ノ點ヲ考慮イタシマシテ、之ニ善處シナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、只今ノ所ハマダ何トモ是ハ御返事申上上ガ兼ネル次第デゴザイマス、一旦定メタ以上ハ容易ニ動カサナイ方ガ良イ、是モ私共ハ全然御同感ト考ヘテ居リマス、昨年出マシタ三割五分ノ稅率等ニ付キマシテモ、アレガ基ニナッテ今日ノ日本ノ製造工業、其他農業等ガ經營セラレテ居リマスル以上ハ、餘リ頻々ト之ヲ改正イタスト云フコトハ決シテ宜イコトトハ考ヘテ居リマセヌ、唯ドウシテモ各方面ノ情況ヲ觀察イタシマシテ改正イタサナケレバナラヌ、其必要ノ急ニ迫ッテ居ルモノダケヲ改正イタスト云フノガ至當デ

ヤナイカト考ヘル次第デゴザイマス
○倉知鐵吉君 大體御答辯ノ次第ハ諒承イタシマシテゴザイマスガ、尙ホチヨト伺テ置キタイト思ヒマスノハ、今議會ニ御提案ガナイコトハ無論デアリマスガ、特別ノ事情ノ變化ガアル場合ニ、來期ナリ來々期ナリニ御出シニナル、是モ無論當然ノコトデアリマスガ、只今ノ所デ今度出サナカタモノハ此次ニ出ス積リダト云フヤウナモノヲ御有チニナッテ居ルカドウカ、今後事情ガ新規ニ起ッテ來タラ出スカモ知レヌト云フ程度デアリマスガ、今度出サナカタガ、此次マデニハ調ベテ次期議會ニハ出スト云フ御腹案ノ品目デモゴザイマスガ、只今私ノ申上ゲマシタ趣意ニ少シ反スルヤウニ思ヒマスガ、ソコハドノ位ノ考デ居ラレルカ、少シ無理ナ御注文カモ知レマセヌガ、大體デ宜シウゴザイマスガ御見込ノ所ヲ……

○政府委員(堀切善兵衛君) 取敢ヘズ今日ノ内外ノ現狀ニ於テ出サナケレバナラヌト考ヘマシタノハ、只今提出イタシタノデアリマシテ、後ハマダ今後ノ調査ニ依リマセヌト云フト、是ハ出ス積リダ、或ハ必ズ出スト云フヤウナコトハ今日申上ゲ兼ネル次第デアリマス

○委員長(子爵梅園篤彦君) 外ニ御質問ゴザイマセヌカ、……ソレデハ本日ハ此程度ニ止メマシテ、次回ニ質問ヲ繼續イタシタイト思ヒマス、是ニテ散會イタシマス

午後二時三十一分散會
 出席者左ノ如シ

| | |
|------|----------|
| 委員長 | 子爵梅園 篤彦君 |
| 副委員長 | 倉知 鐵吉君 |
| 委員 | 子爵吉田 清風君 |
| | 男爵橋元 正輝君 |
| | 西野 元君 |
| | 次田大三郎君 |

| | |
|------|----------------|
| 政府委員 | 大藏政務次官 堀切善兵衛君 |
| | 大藏省主稅局長 中島 鐵平君 |
| | 農林省農務局長 長瀬 貞一君 |
| | 農林省山林局長 木島 駒藏君 |

昭和八年三月二十二日印刷

昭和八年三月二十三日發行

貴族院事務局

印刷者 內閣印刷局